法蔵寺の歴史（十四）

祐天上人の碑

法蔵寺に残る祐天名号

法蔵寺の赤門の参道脇に、ひっそりと名号(みょうごう＝念仏)碑が建っています。『祐天（ゆうてん）上人名碑(ひ)』です。

祐天上人（一六三七―一七一八）は、江戸時代前期の浄土宗僧侶です。現在の福島県に生まれ、成田山新勝寺で修行をし、五代将軍徳川家綱公、その生母桂昌院、六代将軍徳川家宣公などの帰依を受けました。

東京の伝通院の住職を経て、浄土宗大本山増上寺第三十六世法主(ほっす)となりました。

念仏こそ世を救う道

祐天上人は、多くの奇瑞(きずい＝不思議な現象)が伝えられています。大変霊力の優れた方だったようです。

その祐天上人は「念仏」の力により多くの民を救うことを決意しました。

東京目黒にある祐天寺は、駅名にもなっている東京の観光スポットです。当寺は、祐天上人の人々を救いたい思いを弟子が受け継ぎ、念仏道場として建立されました。

祐天上人は各地に「念仏のあと」を残しました。

法蔵寺もその一つです。祐天上人は、増上寺に入る前に、茨城県飯沼の弘経寺に籍を置いています。弘経寺は法蔵寺の本寺です。ゆかりのある寺に、自身の名号をおいたのでしょう。

法蔵寺には、この名号碑の他に、名号揮毫(きごう＝毛筆)が残されています。

いろは四十八組の火消し

祐天上人が増上寺ご法主の時、増上寺火消し隊を組織しました。

一千人いたといわれる増上寺の学僧を「いろは」の四十八組に分け、組織的な防火体制を作りました。後に、この消防防火体制で一度も火事を出さなかったことが評価され、町奉行大岡越前守忠相が、この制度を参考にし「江戸町火消し」を確立したと言われます。

法蔵寺の参道にたたずむ特徴ある字の名号碑の前に立つと、いまも念仏で護られる霊験が感じられます。

合掌

⇓ 祐天上人名号碑

住職が正僧正に叙任

住職が、本山より『正僧正』(じょうそうじょう)の位を叙任されました。本山のご門主、ご法主を除き、最高位になります。

先代二十七世住職と二代続いての栄誉です。

緋衣(ひえ)被着許可

正僧正叙任に加え、緋衣(ひえ＝緋色の衣)の被着許可を頂きました。県内では唯一です。これも先代とともに、二代続けての栄誉です。

お坊さんの衣の色は宗派によって序列が異なりますが、浄土宗では「紫衣(しえ)」が最高位です。「緋衣」は総本山より直接頂く特別許可になります。

普段に被着することは出来ませんが、特別の機会にご覧頂きたいと思っています。

合掌